

きんもくせい

令和2年 学校教育だより

March **3** 第344号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会
発行・埼玉県富士見市教育委員会
電話・049-251-2711 (内線623)

編集目標 人間尊重の教育を求めて



「みんなのアイランド」

写真提供／ふじみ野小学校

「じきゅうそうきろくかい」

諏訪小学校二年

岩下 朋生

じきゅうそうが

はやくはしれた

おかあさんが

てをふってくれた

さいごまで

あるかなかった

うれしかった

新学習指導要領の中で 社会科に求められていること

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、人工知能の進化などにより、今後は、予測困難な時代になると言われています。平成二十九年告示の学習指導要領は、そうした社会の変化や社会のあり方を見通しながら、その時代に活躍できる人材として必要な力を多くを目的に改訂されました。社会科においては、よりよい社会の形成に向け、自らの能力を引き出し、学習したことを活用して、社会の中で出会う課題を解決していくことのできる人材の育成が重要であると言われています。

社会科の授業では、社会的な見方・考え方を働かせ、単元を通して「主体的・対話的で深い学び」の観点から、問題解決的な学習の充実が求められています。これらことを踏まえ、私が「主体的に学習の問題を追究する」「子どもの育成を目指した三年生の授業実践の中から」「問い」「学び合い」「振り返り」に焦点をあて、活動の様子を紹介いたします。

主体的に追究する態度を 育成する社会科学習

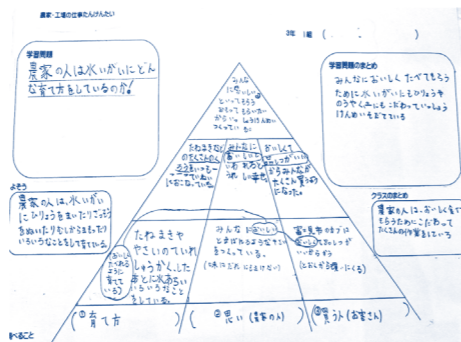


指導者 針ヶ谷小学校 教諭 金子純一

学習のスタートは、教師から学習問題を一方的に提示するのではなく、社会とのつながりを意識させ、資料に対する子どもの素朴な疑問や生活経験などを基に問題意識を高めていきます。教師は、子どもの「問い」を引き出す資料や学習過程を工夫し、「問い」に対する予想と追究の方向を明らかにしていくことが大切です。実際の授業では、学習問題に切実感をもたせるために、ゲストティーチャーの活用を積極的に図りました。

問い

- ③ 調べていく項目を書く。
- ④ 下段に調べたことを書く。
- ⑤ 中段から上段へ抽象化する。
- ⑥ 学習問題の結論を書く。
- ⑦ クラスの結論を書く。



関わり合いの 中で学ぶ

針ヶ谷小学校 教諭 中島 央子

針ヶ谷小学校の『やよい学級』は、一年生と二年生の教室の間にあります。この教室配置のため、毎日の学校生活の中で、お互いに自然な関わり合いをもつて過ごすことができます。一年生は『やよい学級』のお兄さん、お姉さん(ときには同学年)の名前を覚えて、「どうして?」と疑問に思っています。私たちはそれをいい機会として、率直に聞いてくれます。私たちがそれをいい機会として、率直に聞いてくれます。

会として、やよい学級の子どもの個性やよいところを伝えるようにしています。そうして一年が経つ頃には、針ヶ谷小学校の仲間としてお互いにより関わりをもつようになっています。この「よい関わり」こそが、インクルーシブ教育の原点なのだと思われています。やよい学級では、現在三名の児童が、日々、様々な関わりの中で学び合いをしています。「できる」「できない」の間の「できそうである」「〇〇を手伝えられる」等を細かく見取り、少しの変化と一緒に喜び、気持ちの折り合いがつかないときはそばで寄り添いながら、今日も『やよい学級』のドラマチックな一日が過ぎようとしています。

子どもは、活動を振り返ることで、自分の考えの変容を捉えたり、学び合いの価値を見出したりするなど、よりよい学び方を身につけていきます。このように思考ツールを活用することで、子どもの思考が促され、社会的現象の意味や特色、相互関係に気付くことができました。そして他者との考えの違いや共通点が整理され、論点が絞られた話し合いにつながりました。また、単元を通してドラマチックな学びを通して、思考の連続性を促しながら、問題解決を進めることができました。

振り返り

子どもは、活動を振り返ることで、自分の考えの変容を捉えたり、学び合いの価値を見出したりするなど、よりよい学び方を身につけていきます。



本郷中学校 3年 澤村 舞音

みんなで頑張る本郷中学校

行事は体育祭や合唱コンクールなど最高学年として後輩をリードし、成功を収めてきた私たち3年生ですが、受験生としての自覚は十分ではありませんでした。そこで、団結力には自信のある私たちの学年では「受験は団体戦」という合言葉のもと「皆と一緒に頑張れる企画」をつくろうという声が起こり「朝学習」をはじめています。早朝からたくさんの仲間勉強しています。また冬休みには校長先生をはじめ先生方が開いてくれた勉強会に多くの生徒が参加しました。おかげで勉強に励む生徒が増えていきました。最後まで諦めずお互いに支え合って頑張りたいと思います。



・地元農家 細田さん
「味は誰にも負けない。自分の子どものように野菜を育てているよ。」
・ステレンス工場 永友さん
「世界に負けない技術で、いいものをお客さんに届けたい。」



学び合い

「問い」をもって追究してきた子どもは、一人一人が「問い」に対する自分の考えをもって、物事に対する考えを広げたり深めたりすることができ、よい学び方を身につけていきます。



- ① 学習問題を立てる。
- ② 予想を書く。

子どもは、人を通して学習内容と社会とのつながりを感じることができ、学習意欲の向上だけでなく、社会的現象を深く追究しようとする姿勢が見られました。生産者の仕事の工夫とともに、よいものをつくりたいという思いについても多くの「問い」をもつことができました。

学習の振り返り		年 組 氏 名	
月 日	単元名	振り返り	振り返り
3/5	昔の道具	① わかったこと	② 考えたこと
3/5	昔の道具	① わかったこと	② 考えたこと
3/5	昔の道具	① わかったこと	② 考えたこと

自分の考えを根拠に学び合い、振り返ることができるよう指導を続けていきます。二〇三〇年頃の社会や、その先の社会において、目の前の子どもが大人になったときに、よりよい社会を築くことができるよう、日々の授業改善を怠ることなく、主体的に追究できる授業づくりを目指していきたいです。

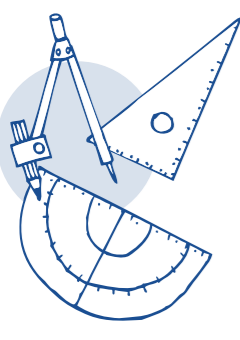
指導講評

針ヶ谷小学校 校長 辻口 幸恵

来年度から、小学校で実施される新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」が求められるとされています。金子教諭は、子どもたちが学習に興味・関心をもてるよう、地域の人たちを教材に取り上げ、直接、話を聞いたり、体験したりする活動を用意図に取り入れています。また、自分の思考を可視化できる工夫も行っています。暗記して終わりがちな社会科が、思考をぐるぐる巡らせる社会科になり、学ぶ楽しさがいっぱいあります。

終わりに

学習指導要領の改訂を受けて、主体的に問題を追究していくことは重要であると再認識しました。今後も、学習意欲を高めて「問い」をもたせ



みんなの輪の中の一人

富士見特別支援学校 保護者 佐藤 裕子

私は二人の息子をもつ母として十四年目を迎えています。一人目は高校生となり、自分のやりたいことをやってくれているので、見守る立ち位置と少しの軌道修正をする役割になってきました。

二人目はダウン症候群の二十一トリソミーで生まれてきたので、体的にあまり大きくならず、成長はゆっくりで、知的レベルもゆっくりと成長するマイペースな子です。その子が一型の糖尿病となり、つきそいが必要となったことから、学校生活を少し近くで見守る機会をもらいました。この経験はなかなかできないことでした。先生方のいろいろな一面を知る、学校の動きの一部を知る、親のいないときの他の子どもたちの一面を知る、我が子のことを見るなど、様々な場面を見ることができました。

二人目はダウン症候群の二十一トリソミーで生まれてきたので、体的にあまり大きくならず、成長はゆっくりで、知的レベルもゆっくりと成長するマイペースな子です。その子が一型の糖尿病となり、つきそいが必要となったことから、学校生活を少し近くで見守る機会をもらいました。この経験はなかなかできないことでした。先生方のいろいろな一面を知る、学校の動きの一部を知る、親のいないときの他の子どもたちの一面を知る、我が子のことを見るなど、様々な場面を見ることができました。



私は、仕事で障がいのある方のサポートを職業としています。結婚前より携わっていますが、経験がもの見方を変化させてくれています。例えば、子どもは一人では生きていけません。その子を真ん中に保護者、学校、通っ

たような気がしました。

また、音楽ではリコーダーが苦手な子どもたちをサポートしました。低音が出にくく、あきらめようとしている子と一緒に練習しました。音が出るのと驚いた表情でこちらを向きました。何度も音が出ると、笑顔に変わっていき、自信がついたようでした。とてもキラキラした目をしていたのが印象的でした。ここでも大切なことを教わり、わかっているつもりだった「子育て」を再認識でき、とてもよい経験となりました。



役員やボランティアは無償ですが、私はたくさんもらっています。子どもたちの笑顔を！

進路指導・キャリア教育を通じての「生きる力」の育成 西中学校

西中学校では、お互いのよさや可能性を発揮し、集団や自己の生活上の課題を解決することを通じて、生徒一人一人のキャリア形成と自己実現をするべく、日々の教育活動に取り組んでいます。

今年度、三年生は、グループ毎に「社会科見学」を実施しました。新聞社では、新聞記事の校閲作業を行い、社会へ情報を正確に届けることの大切さを知ることができまし



社会科見学(3年生)「新聞社」にて新聞記事の校閲作業 2019年9月2日(月)

他にも、人生の先輩を講師として招いて、貴重な話を聞く「ふれあい講演会」や三日間、事業所へ訪問し、実際の仕事を体験する「はつらつ社会体験」、小中連携の一環として、災害時の「引き渡し訓練」や

陸上部・吹奏楽部が小学校の行事に参加するなど、本校の教育活動全体を通して、生徒の「生きる力」をはぐくんでいきます。

南畑水田タイム

南畑小学校

五年生は、地域の特徴でもある「米づくり」を総合的な学習の時間で取り組めます。地域の米づくり名人から学んだり、保護者の方に協力していただいたりしながら、くろつけ、田植え、稲刈りの体験をしました。稲刈り後には、藁細工にも挑戦し、鍋敷きをつくりました。米づくりの体験では、最初に手作業で活動し、最後は機械を使った作業を見せていただきました。児童

童は、手作業で全てやりたかったと言いつつ、機械の速さと精度に驚いていました。つくったお米は、今まで協力してくださった方々に感謝しながら、おにぎりにしていただきました。

自分たちの主食であるお米を、自らつくり、食べるという貴重な体験を通して、単に食べるということだけではなく、米づくりの大変さや工夫、また文化について理解を深めました。



ることができました。そして、地域に根付いた米づくりについて愛着をもつことができました。

教育課題特集

はぐくむ

生きる力を

～学校・家庭・地域から～

子どもたちから得たもの

みずほ台小学校 保護者 帖地 知穂

P T A本部役員になり五年が経とうとしています。校舎に入ると明るく元気な子どもたちの姿をよく目にします。学校に行く楽しみの一つです。また、学校応援団が本格的に始動し、ボランティアとして様々な授業に携わるようになり、さらに楽しみが増えました。

家庭科ではミシンでエプロンをつくりました。使い慣れない子どもたちは縫い目が

が何重にもなっていたり、ガタガタしていたり、大人なら縫い直したくなるようなものもありました。ところが、ある子ができあがったエプロンを掲げずっと見たあと、それを自分の体に当てうなずいていました。その表情は達成感に満ち溢れたいい笑顔でした。自分でつくった世界に一つだけのエプロンなのです。私ははっとしました。大切なことは何かということを教えられ

地域と子どもたちのために

水谷第三町会町会長 大久保 勇次

当地域では平成22年、市街化地域に変更となり、みずほ台駅に比較的近いため、近年開発が盛んに行われ、人口が急激に増えてきました。しかし諸事情により区画整理がされず道路が昔のまま狭く、特に子どもたちが通学路として利用している町会内中央の市道42号線は、車が通ると歩行者は畑に入ったりやり過すほどでした。また、道路と畑の境界にお茶の木が長く植えてあり、不審者にとっては隠れやすく危険な道でした。地権者の皆様のご厚意により、土地を採納(無償提供)していただき、旧道36mを6mの幅にし、歩道15mにガードパイプを付け、680mの長さの安全な道路になりました。

返事をしてくれず。今後防犯対策については人や時間の限界もあることから、地域全体で見守りができる体制をつくっていきたくと考えております。

また市道123号線の水谷幼稚園までの凸凹道を地権者のご厚意により同じく採納していただき旧道21mを48mの幅で185mの長さも安全な道路になりました。地域のみなさんの安全面に対する意識の高まりを感じております。更に朝晩のう回路として、車がスピードを出して子どもたちの横をすれすれに通り過ぎる危険な通学路の変更や、交通量の多い交差点をドライバークラッシュが注意喚起してくれるようベンガル色で縁取りし、グリーンベルトを設け環境を改善しました。

少子高齢化、核家族化、家族制度のあり方、家族機能の低下等が叫ばれる中で、子どもたちには心が豊かになるような道徳教育と体験学習を通じて、本ではわからないこと、肌で感じて欲しいと思っています。何事も無関心な大人が多い中でも意識して子どもたちの手本となるような地域づくりをしていきたいと考えております。





水谷中

地域とともに…。総合防災訓練(12/8)

「水谷東・柏町地域総合防災訓練」に今年も1年生を中心に約70名が参加しました。鍋油消火体験や起震車体験、倒壊家屋からの救助やAED操作など、地域の方々とともに、もしもの時の対応について学びました!



富士見台中

「ビリギャル・小林さやかさん」記念講演

台中は今年開校60周年です。本音で語る小林さんの話に、体育館は熱気と興奮に包まれました。



富士見特別支援学校

給食室からエールを

子どもたちの明るい笑顔は、給食室の原動力。児童、生徒の心豊かな成長と、希望に輝く未来を、給食に込めて願っています。

「下手な授業より、一流講師の動画がいい?」ある日、何気なく眺めていた新聞記事の見出しに目が留まりました。読んでみると、ある私立中学の先生は、授業で塾講師の動画を流して、先生の事は出席管理と動画の再生ボタンを押すだけのこと。動画ならわかりやすく勉強を教えてくれるかもしれない。しかし、このページの写真にあるような協力して学んだり励まし合ったりする仲間、人とかかわる中であふれる笑顔は、動画では味わえないのではないのでしょうか。本物の教育の姿がここにはあります。



本郷中

みんなの力で地域も綺麗に!

美化委員会の提案で12月23日に、ボランティアが大勢集まり地域清掃を行いました。学校だけでなく、地域もよりよい環境にすることを目指します。



鶴瀬小

いじめ0の学校へ!いじめ0キャンペーン!

いじめ0の学校を目指して集会をしたり、一人一人がいじめをしない宣言をしたりして、いじめ0の意識を学校全体で高めました。



つるせ台小

寒さに負けずに体力づくり

寒さの中、体育朝会でなわとびを行いました。リズムに合わせて、それぞれの課題にチャレンジして頑張りました。



ふじみ野小

プログラミング学習で扇風機をつくったよ

埼玉大学 STEM 教育センターの野村先生をお招きし、4・5年生はプログラミングを学びました。



水谷小

集中して、真剣に。「競書会」

よりよい作品を完成させようと、筆づかいや文字のバランスを意識して、作品づくりに集中することができました。



南畑小

みんなの応援が力になった北風マラソン

みんなで励まし、認め合いながら最後まであきらめないで走り抜きました。保護者・地域のみなさんの応援もたくさんいただきました。

各学校では、体力向上推進委員会を中心に、体育授業や体育的活動の充実を図り、体力の向上に努めています。ご家庭でも是非、富士見市児童生徒体力向上推進委員会から発行されています「いきいき体力」や新体力テスト計測後に配付される『体力プロフィール』をご覧いただき、子どもたちの体力向上、健康な体づくりについて意識していただけたらと思います。ご協力よろしくお願いたします。

		○男子			○女子		
		R1			H30		
男	数	小学校 48項目			中学校 24項目		
		%	○	-	x	○	-
数	2	16	30	6	10	8	
%	4.2	33.3	62.5	25.0	41.7	33.3	
女	数	小学校 48項目			中学校 24項目		
		%	○	-	x	○	-
数	0	15	33	6	13	5	
%	0.0	31.3	68.8	25.0	54.2	20.8	

		○男子			○女子		
		R1			H30		
男	数	小学校 48項目			中学校 24項目		
		%	○	-	x	○	-
数	2	19	27	4	12	8	
%	4.2	39.6	56.3	16.7	50.0	33.3	
女	数	小学校 48項目			中学校 24項目		
		%	○	-	x	○	-
数	1	17	30	8	12	4	
%	2.1	35.4	62.5	33.3	50.0	16.7	

- 【本市児童生徒の体力の現状・H30・R1 年度・埼玉県との比較】
- : 県平均を上回っているもの
 - ×: 県平均を下回っているもの
 - : 県平均と有意差がないもの
- 授業研究会(小学校)の実施 : 授業研究会
 - 新体力テスト結果の分析 : 調査統計部
 - 広報誌「いきいき体力」の発行 : 広報部
 - 高めた体力に焦点をあてた実技研修の実施 : 運動(遊び) 研究部
 - 縄チャレ(長縄8の字跳び選手権)の開催
- 【富士見市児童生徒体力向上推進委員会の主な事業】

教育委員会だより

卒業おめでとうございます

春の暖かな日差しの中、市内小・中・特別支援学校の卒業生の皆さんが新たな門出を迎えます。保護者のみなさまには、お子様の成長を振り返り、感慨もひとしおのことでしょう。

今年度の卒業式は、新型コロナウイルスの影響で、例年通りの開催ができなくなってしまいました。本来であれば、学校教育の節目として、卒業生の新たな門出を保護者、在校生、地域の方、教職員全員で祝福するところではありますが、感染拡大防止策にご理解くださるようお願いいたします。

今年卒業されるみなさんは、令和初めての卒業生です。このような状況の中、急な様々な対応に戸惑いを感じることも多くあったと思いますが、新しい場所で、たくさんの人との出会いを通して、心豊かな人に成長することを願っています。

在校生のみなさん、4月から1学年ずつ進級します。学校は2月末日区切りを迎えてしまいましたが、みなさんの学校生活はこれからも続いていきます。新しい目標に向かって、たくましく元気に1日1日を大切に送りましょう。

令和元年度富士見市立小・特別支援学校新入児童生徒見込数

入学見込み人数は1月20日現在

	入学見込人数
鶴瀬小学校	116人
水谷小学校	124人
南畑小学校	55人
関沢小学校	79人
勝瀬小学校	98人
水谷東小学校	43人
諏訪小学校	121人
みずほ台小学校	81人
針ヶ谷小学校	40人
ふじみ野小学校	103人
つるせ台小学校	104人
富士見台中学校	173人
本郷中学校	127人
東中学校	81人
西中学校	123人
勝瀬中学校	236人
水谷中学校	86人
富士見特別支援学校	16人

※入学式につきましては、市HP等でお知らせします。

お詫びと訂正

12月号(343号)の「人権尊重・私の主張」に、富士見台中学校 浜崎 マリーンさんに執筆いただきましたが、文章中の表記に誤りがありましたので、ここに訂正いたします。 2段目7行目 国 プレッシャーをかけられる

春の暖かな日差しが降り注ぐ青空の下で、本校に限らず、多くの学校でこのような別れの場面が繰り広げられたことでしょう。出会った頃は、別れがこんなにかつたはずですか。いっしょに遊んだり、けんかをしたりしながら毎日を過ごすうちに、信頼関係ができ、お互いにかげがえのない存在になっていったのでしょうか。今はまだ、別れの悲しみでいっぱいですが、たくさんの中からお出会えた奇跡に感謝し、次の新しい出会いを楽しみにしてほしいと思います。(辻口)

平成最後という節目の春、私は人生で初めて自分のクラスの教壇に立ちました。責任感と希望で胸が高まる中、出会ったのは四年二組の子どもたちでした。教壇から見る子



色とりどりのハーモニー

つるせ台小学校 小澤 理紗

でも私たちは、皆キラキラと目を輝かせ、みなぎる元気に圧倒されたのを鮮明に覚えています。そこから、子どもたちと十人十色の音色が響き合う日々が始まりました。

肢を広げることになることを伝えました。二つ目は、「友だちを増やすこと」です。友だちは自分を助けてくれる大切な存在なので、受け身ではなく積極的に声をかけるよう

も私たちは、クラスのオリジナルソングを自ら制作し、行事ごとに元気よく歌うなど、主体的に物事を考える集団に成長を遂げました。四年二組と奏でたハーモニーは、私の教員生活に豊かな彩りを与えてくれました。また、いつも心から支えてくださった、いつも心から支えてく

多くの先生方には感謝に堪えません。これからもこの経験を胸に学び続ける教師でありたいです。

春は、出会いと別れの季節。新型コロナウイルス感染症への対応のため、全国の多くの学校で、三月から春休みまで、臨時休業の措置がとられることとなりました。もう少しで今年度も終わり、一年間のまとめをしようと思っていた矢先の出来事でした。あまりにも突然のこと、何の心の準備もないまま、別れの日となりました。昨日までは、普通の毎日だったのに。帰りの会を終え、子どもたちがいつものように玄關前に整列し、学年の先生たちを待っています。いつもと違うのは、たくさん荷物と手をいっぱい持っていることだけ。そして、いつものように、先生が笑顔で話を始めます。ところが、その声が突然、涙声に変わっていったのです。「もつとみんなど一緒にいたかった」「またまた教えたことがたくさんあった」と。子どもたちも、大粒の涙を流しながら、先生の話を聞いています。彼らにも、今日でクラスのみんなと別れることが、だんだん実感できてきたのかもしれない。

編集後記